忍耐とリラ

為替ディーリングには機敏さと忍耐力とどちらが必要なのだろうか。どちらも必要だろうが、私は機敏さの方をより重視する。ただ市場の状況によっては忍耐力の方が求められるケースがある。

現在のトルコリラはその状況にある。現在ドルリラは 30.73 水準で推移している。ほとんど史上最高値(リラの最安値)水準だ。昨年 6 月にエルドガン大統領が従来の方針を転換し、新しいチームに金融財政政策を任せた。新チームはオーソドックスな金融政策と支出抑制策を実行することで、インフレを抑制し、流出した資本を取り戻し、通貨や債券の信頼を回復することを目指した。

最大のリスクは大統領だ。心変わりして低金利こそ善だとの元の認識に戻る懸念が市場にいつもあった。また短期間で中銀総裁の首を挿げ替えるのではないかと。3 月下旬に選挙があるからなおさらだった。

今月初めに突然中銀総裁が辞任した。個人的な理由からとのことだったが、大統領が糸を引いたに違いないと思われた。だがすぐに FED ニューヨークやアマゾンでエコノミストのキャリアを持つ副総裁が昇格し、新チームのキーパーソンの財務大臣が現行の政策を引き継ぐことを言明した。中銀新総裁も前任者の政策の継承を強調したうえで、大統領の最低賃金の上げ幅が中銀の政策と矛盾する点を指摘した。選挙が近づくにつれて大統領のバラマキ政策が増えることを懸念し、けん制した。こうして中銀総裁の辞任の影響は乗り越えられたようでリラが大きく売られることもなかった。

そうなるとリラの買うタイミングはいつ来るかだ。インフレ率は直近で 65%と高い。中銀が政策金利を先月下旬 45%に引き上げたとき、利上げ終了のサインを出した。インフレ率は年央ころから下がり、年末には３６％に下落する見通しを示した。

新総裁はさらに 25 年末には１４％に下落する見通しを示した。このシナリオがそれほど外れなければ海外からの資本流入は加速し債券は上昇し、リラも上昇トレンドに転じるはずだ。それも結構長いトレンドになりそうだ。

ポジションを持つタイミングだがまだ早いだろう。インフレは収まっておらず、新総裁が懸念したように選挙前のエルドガンの政策次第でインフレがさらに上昇する可能性がある。その場合中銀はさらに利上げを強いられる可能性がある。

選挙が終わって第二四半期にポジションを持つタイミングが来ることを期待したい。チャンスはできるだけ早くつかめば利幅も大きくなるので早まりがちになるのが普通だが、リラの場合は忍耐が必要だ。いずれにせよ長いトレンドになる可能性があるので焦る必要はない。

リスクは依然としてエルドガン大統領だ。高金利にどこまで耐えられるか。今日までよく耐えてきた。彼にも一層の忍耐力が必要だ。